

## 口腔インプラント

### (人工歯根)治療

― 病気(全身疾患)があるから、あごの骨が細いからとインプラント治療をあきらめていませんか―

今回、お伝えしたいのは、病気(全身疾患)があっても、あごの骨が細くとも、インプラント治療は可能なことです。街の噂で、インプラント治療は①病気でないこと②あごの骨が充分太いこと③1度だめになると2度とできない・・・と思っている方も多いでしょう。その結果、患者さん自身は内心、インプラント治療を希望しても、①自分は病気だ(糖尿病、高血圧、血液サラサラの薬を飲んでいる、B型・C型肝炎など)②あごの骨が

細い③過去に入れたインプラントが抜けてしまったなどの理由で歯科担当医に相談せず、自分の思い込みや判断で、インプラント治療をあきらめてしまう方が多くいました。

せっかくインプラント治療ができるのに、これはもったいないことです。食べる時に歯に加わった力はあごの骨に伝わるため、あごの骨は細くなりませんが、歯の抜けた分部に入れ歯を入れただけでは、力は骨の内部に伝わらず、骨は細く、スカスカになります。インプラント治療は骨を細くせず、美味しく食べられ、しっかりと話ができるなど、利点も多いので、21世紀は入れ歯の時代からインプラントの時代といわれています。また、いったん細くなったあごの骨も、現代の口腔外科の技術で太くすることも可能ですが、全身疾患を持っている方のインプラント治療は、

できる施設が限られますので、インプラント治療を希望される方は、歯科担当医に①自分の病気や病状②自分のあごの状態③インプラント治療にかかる費用や期間④義歯と比べてどう違うかなどを極力包み隠さずに相談してください。担当医と患者さんの相互理解が治療方針の決定にとっても大切です。そうすることで、自分では不可能と思っていたインプラント治療が可能となることが多々あります。自身自身の解釈でインプラント治療をあきらめず、インプラント治療によって、自分の歯のような咬み合わせを回復し、食べる事の楽しみを取り戻してください。

文 菅間記念病院 歯科口腔外科

蔵口 潤

清水 拓

東京医科大学口腔外科 主任教授  
(菅間記念病院 非常勤)

千葉博茂